

Ⅱ. 「家政学原論」以外の科目において「家政学原論」の視点を取り入れた授業実践
「生活科学概論（一部）」同志社女子大学生活科学部食物栄養科学科 吉井 美奈子
1. シラバス

授業科目名	生活科学概論	単位数	2
開講年次	1年	学期	前学期
担当教員	吉井 美奈子（非常勤）他 複数専任教員のオムニバス		
科目分類	入門・概論科目		
選択／必修	必修	授業形態	講義
授業の目標	食物科学専攻の新入生に本専攻での4年間の学びの内容を紹介するとともに、興味を持って自主的に大学で学ぶ姿勢を養う。また、生活全般における人と環境の相互作用、並びに家庭生活が人間生活において果たす役割について、生活科学的視点から概説し、身近な課題に目を向けて考察する。		
授業の内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 食物科学専攻における学び。本学の歴史と理念 2. 食物科学専攻における学び。健やかな学生生活の過ごし方 3. 食物科学専攻における学び。4年間の勉学について 4. 食物科学専攻における学び。情報処理・レポート・プレゼンテーション 5. 食物科学専攻における学び。本学の調理学 6. 食物科学専攻における学び。免許と資格 7. 食物科学への関心と学問的展開 8. 生活科学とは 9. 生活科学と家政学 10. 家庭の機能・家族生活 11. 衣生活 12. 住生活 13. 食生活 14. 消費者としての生活 15. まとめ 		
テキスト	家政学のじかん（関西家政学原論研究会編）、 適宜プリントを配布		
参考文献	亀高京子監修『若手研究者が読む「家政学原論」2006』家政教育社(2006) 松岡明子編著『家政学の未来－生活・消費・環境のニュー・パラダイム－』有斐閣(2004)→廃版 (社)日本家政学会家政学原論部会監修『家政学 未来への挑戦』建帛社(2001) (社)日本家政学会編『新版 家政学事典』朝倉書店(2004) ※その他の参考文献については、授業中に適宜紹介。		
評価方法・基準	出席 28%、前半 6 回の提出物で 24%、後半 8 回の提出物および定期試験で 48%		

2. 授業の特徴や授業を行うにあたっての工夫

①「生活科学概論」という講義名であるため、「家政学」について詳しく述べる時間がとりづらいのが現状です。しかし、「生活科学」は元々「家政学」であった、ということを説明するようにしています。また、家政学の定義や目的、領域についても触れるようにしています。

②この科目は、専任の先生方が7回分、大学生活のガイダンスをオムニバス形式で行うため、実際には8回分だけしか担当しておらず、十分な時間数であるとは言えません。その中で、出来るだけ「家政学」を印象付けるように、難しくなり過ぎないように心がけています。短い時間数ですが、8回のうちの1回目と2回目の最初（復習を兼ねて）には、家政学について講義をおこなっています。

③「概論」であるため、各分野の内容についても触れなければならないため、十分な時間があるとは言えません。しかし、学生には伝えることをシンプルにすることで、家政学の重要性は伝わっていると思います。

この講義で、特に伝えたいとしているのは、次の内容です。

- (1) 生活科学の前身は「家政学」である。
- (2) 「家政学」や「生活科学」は女性だけのものではない。
- (3) 細分化されやすい研究に携わっても、常に最初の目的や「家政学」「生活科学」のことを考えながら研究を行うこと。

④食物栄養科学科なので、学びは「食」に特化することが多く、実験などが多く研究成果が細分化される可能性が高いと考えられます。そこで、今後専門的に学ぶ際にも、「家政学」を忘れず、常に「なぜこの実験を行っているのか」という主たる目的を見失わないように、と繰り返し伝えるようにしています。

⑤関西支部で作成したテキストを使うことで、講義時間が十分確保できないデメリットをカバーするようにしています。

(写真) 関西家政学原論研究会 (編)
『家政学のじかん』 →

